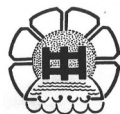


Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
〒680-0846
鳥取市扇町21番地
東教発 H27.11.2 №134
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

18歳の巣立ちをめざして

鳥取市立湖東中学校



夢や希望を育む道德教育の取組

湖東中学校は、学校教育目標「夢の実現に向け 見通しを持って 今を充実して生きる生徒の育成」、めざす生徒像「自分で考え 自分で判断し 自分が行動する生徒」の実現に向けて、「志を育て 心を耕す道德の授業」という道德教育の研究テーマを掲げ、その充実に取り組んでいます。道德教育に係る数々の取組が、教員にも生徒にも「いい感じ」に浸透してきています。

研修会と授業研究会で教員が高まる

《道德に係る主な研修等》

- ・全体研修会（講義と演習）
- ・全体授業研究会（年1回）
- ・ミニ授業研究会（年2回）



上記の研修等では、必ず外部講師等による指導・助言を受ける。

ミニ授業研究会は、学年の研究会として行うが、他学年の道德担当者も加わり、それぞれの学年の取組につなげる。

子どもの姿が変わった

《学校基本アンケートの結果から》



湖東中学校の生徒は、学校教育目標とめざす生徒像を全員が言えます。

	H26年度	H27年5月	H27年7月
道德の授業では、自分を振り返り、生き方を考えることができる	68.2%	80.2%	86.4%
将来の夢や目標を持っている	68.9%	74.8%	78.2%
生徒会活動に積極的にかかわっている	45.0%	56.4%	66.1%



目標に進んでいく生徒の成長を願い、日々研鑽を重ねていくことで、教員の指導の質が高まると共に、その教員の姿から生徒は多くのことを学びます。生き方を考える生徒は、共に生き方を考える教員の姿を最も身近な手本として、大きく成長していきます。

教職員の自治力

局長 杉本 仁詞

前期の学校訪問では、50校近くの学校を訪問させていただいた。また、7月30日（木）・31日（金）に本県で開催された第65回全国公立小・中学校女性校長会全国研究協議大会にも参加させていただいた。学校訪問や女性校長会への参加を通して、「教職員の自治力」の大切さについてあらためて確認することができた。

学校訪問では多くの学校で、主任等の教職員を中心に校務分掌が機能して、活力のある学校運営がなされている様子を観ることができた。学校運営は、管理職や一部の教職員だけで行うものではない。全ての教職員が主体者であるという自覚のもと、各校務分掌等を通して学校運営に携わっていききたい。

「これからの時代に求められる教育の本質・目標は、『未来を自ら切り拓いていくことのできる力をつけること』である。そうすると、教員の仕事は『既知の伝達』だけではなく、学びの専門家としての高度な専門的知識と、実践的能力が必要となる。」（教職研修7月号 [教育開発研究所] より一部抜粋）

教職員一人一人が、よりよい学校づくりに向けて自ら切り拓いていくことのできる力をつけていききたい。そして、教職員集団でよりよい学校づくりに向けて教職員自身がアクティブ・ラーニングを行っていくのである。そうすることが学校力を向上させていくことになると思う。これは、子どもたちにとって素晴らしい教育環境になると考える。キーワードは「教職員の自治力」である。



育ちと学びをつなぐために ～幼保・小の連携～

幼保小の円滑な接続には、園と小学校それぞれの保育・教育の充実と相互理解が不可欠です。今回は、そのための取組の1つとして実施している「東部地区幼稚園教員・保育士等の合同研修会」（年間5回実施）について紹介します。

東部地区幼稚園教員・保育士等の合同研修会とは・・・



<趣旨>

幼児期や小学校接続期の教育の充実を図るために、課題に応じた様々な研修の機会を設けることにより、教員・保育士等の資質及び専門性の向上を図る。

<対象>

幼稚園・保育所（園）・認定こども園の教諭・保育士・保育教諭、小学校・特別支援学校の教員 市町担当課（教育委員会・保育担当課）の担当者等

★研修内容は園のニーズや課題によって決定します。本年度は以下のようなテーマで行いました。各回の詳細については、ホームページに掲載しております。



教育・保育の充実

<テーマ①> 園内研修

◆研修内容

- ・保育者の専門性を高めるには、同僚との学び合い（園内研修）が不可欠である。
- ・日頃から何でも語り合える風土作りをすることによって、園内研修を活発化する。

<テーマ②> 運動遊び

◆研修内容

- ・幼児期は多様な動きが経験できる様々な遊びを取り入れる。
- ・体を動かすことの心地よさを体験できるようにする。
- ・「できた」「またやりたい」という自己有能感が実感できるようにする。

<テーマ③> 表現活動

◆研修内容

- ・生活や遊びの中での「かかわり、こだわり、思いやり、ゆとり」を大切に、感性を育てる。
- ・表現の多様性を大切にする。
- ・表現したもの（結果）ではなく、遊びの中で楽しみながら表現していること（過程）を重視する。

<テーマ④> 特別支援教育

◆研修内容

- ・個の育ちと集団の育ちは一体化したものとして捉える。
- ・個別の指導計画は園全体で考え、園として対応できるように。
- ・「こうしたらうまくできた」という経験を大切にする。

遊びを通して、学びの基礎となる力（自立心、思考力、表現力、探究心等）を育成

早期からの実態把握・支援による幼保小の一貫した適切な指導

相互理解

<テーマ⑤> 幼保小連携

小学校教員の保育園における長期社会体験研修の実践発表や意見交換を通して、幼児教育と小学校教育の相互理解を図りました。

◆研修内容

- 実践発表 鳥取市立美保小学校 松川 智子 教諭
(H26年度長期社会体験研修生)
鳥取市立美保保育園 西川美佐絵 副園長
(H26年度長期社会体験研修生受入園)

(主な取組)

- ・保小交流 : 互恵性のある交流となるためにそれぞれのねらい・評価を明確にするとともに、事前事後の打合せや振り返りを行う。
- ・職員同士の連携 : 小学校教員の保育参加を通して相互理解を図る。日常的な関わりを大切にする。
- ・スタートアップの改訂 : 45分間を弾力的に運用する。合科的・関連的な学習を行う。

○グループ協議

育ちと学びのつながりを理解し、連携を進めるための取組について情報交換及び協議を実施

相互のねらいを明確にした交流会指導案 月17日

1 本時目標と評価	年長児	1年生
(学習) 本時のねらい	学校探検や乗り物ゲームを楽しみ、1年生とのふれあいを通じて、小学校生活への期待をもつ。	(国語科) 本時の目標 年長児のために、小学校を案内したり、乗り物ゲームをしたりして、小学校の楽しいところを分かりやすくはっきりと話すことができる。
評価	1年生の発言や行動が思いやり見たりして、興味を持って話そうとしている。(心情・意欲・態度)	評価 年長児を期待を持って迎えようとしている。(開心・意欲・態度) 子どもの姿 子どもは、

子どもの姿	学習活動	○年長児への援助、配慮	○1年生への指導上の留意点
・学校探検 ・(行) ・乗り物 ・発言)	1 児童玄関で代表児童がお迎えする。 9:50～	○1年生について音楽室まで歩いていけるよう、声かけをする。 ○1年生や先生の話を最後まで見	○代表児童(各クラス2名)が年長児を迎え、音楽室まで案内する。(年長児の下見は1課会議室後)
・交流活動	2 始めの会をする。	て聞くように声かけ	



小学校教員、幼稚園教諭、保育士、保育教諭が同じグループで、円滑な接続に向けて熱心に話し合いました。

連続性、一貫性のある幼児教育・小学校教育のための相互理解

子どもたちの育ちや発達には、乳・幼児期、学童期と連続しており、幼稚園・保育所（園）から小学校へと通う機関が変わっても、成長は続いていくものです。育ちの連続性を保つためにも、幼稚園・保育所（園）と小学校との連携は重要です。「東部地区幼稚園教員・保育士等の合同研修会」は、そうした連携のための機会の一つと考えています。今後も幼児教育関係者はもちろん、小学校教育にかかわる方々にも是非御参加いただき、育ちと学びをつなげていきましょう。



人権教育の保護者研修会を 参加型で取り組んでみませんか？

～『とっとり子育て親育ちプログラム』の活用を通して～

人権教育の推進に向けて、学校PTAでも懇談会や研修会を開催しています。会の形態も、座学よりも参加型演習を選択する学校が増えてきました。

先日、鳥取市立若葉台小学校が標記プログラムを活用した研修会を開催しましたので、研修会の様子から、プログラムを活用した参加型演習のよさを紹介します。

ファシリテータによる進行



・進行役となるファシリテータがプログラムの内容に沿って研修会を進行しました。

よさ プログラムの進行は、無料で派遣されたファシリテータが行います。もちろん、プログラムの冊子を活用すれば、学校の先生方でも進行は可能です。

アイスブレイクとグループづくり



・アイスブレイクで緊張をほぐし、その後、4人程度のグループに分かれてワークシートに沿って話し合いをしました。

よさ 研修の導入時に気軽に自分の考えや思いが話しやすい雰囲気をつくることができます。ワークシート(下記参照)を用いると、小グループで楽しく話し合いを進めることができます。

＜研修会当日は2種類のプログラムを準備し、参加者はいずれかを選んで参加しました。＞

①「子どものいいところ みつけた!!」ワークシートの一部
・わが子の気になるところの見方を変えてみましょう。

- △落ち着きがない → ◎積極的な性格、活動的
- △時間が守れない → ◎おおらか、小さいことは気にしない性格
- △恥ずかしがり屋 → ◎慎重、距離がおける性格

②「子どもを元気にする言葉」ワークシートの一部
・どんな言葉かけができるでしょうか。

場面	余裕のないとき	余裕のあるとき
・宿題にすぐに取りかかれない子に	「早くしなさい」「今すぐしなさい」など(命令口調)	「できそうかな?」「一緒にやろうか」など
・出したものを片付けられない子に	「早く片付けなさい」「捨ててしまおう」など(脅し口調)	「後で困るから今やろう」「一緒に片付けようか?」
・約束したゲームの時間が守れない子に	「もうさせんよ」「取り上げるよ」など(脅し口調)	「あと1回だけだよ」「〇〇(他の遊び)しようよ」

グループ発表による情報共有



よさ 話し合ったことを紹介し合うことで、他のグループの話し合いの様子を知ることができます。また、全体で共有し、ファシリテータのまとめを聞くことで、研修における各自の学びを深めることができます。

ファシリテータのまとめ



・各グループの代表が話し合いの様子を紹介し、最後にファシリテータがまとめのメッセージを伝えました。



子どものことだけをじっくり考える貴重な時間になりました。グループでの話し合いで「子どもの気になるところも見方を変えたら必ずいいところにつながる」という気づきがありました。

参加者の声

参加型の研修は、あっという間の時間でした。「大丈夫?」「さすが!」「すごいね」「がんばってるね」「きょうまくいく!」など、子どもをやる気にさせる言葉で自然に声かけをしていきたいとあらためて思いました。



鳥取県が進める人権教育がめざすもの＜下記アドレス参照＞を達成させるための3つの側面(教育課題)のひとつに「人権が尊重される教育(人権が大切にされた環境で学ぶ)」があります。互いが認め合いながら、自由に意見が言える環境をつくるために『とっとり子育て親育ちプログラム』は、有効なプログラム集です。ぜひ、本プログラムや県の講師派遣制度を活用してください。

＜人権教育課ホームページ <http://www.pref.tottori.lg.jp/95332.htm>＞

学事コーナー

文書の取扱いについて

学校には日々多くの文書が届き、また、学校からも多くの文書を発信しています。毎日目に触れるこれらの文書について、どれくらい意識して取り扱っているでしょうか。

文書には、確実性、保存性があることから、事務処理はほとんどが文書によって行われます。したがって、学校の事務がスムーズに進み、円滑な教育活動を行うためには、文書事務が支障なく行われることが大切です。

鳥取県では、所属における文書の管理状況を把握し、その処理、施行、整理及び保管が円滑適正に行われるよう所属の職員を指揮監督するために文書管理主任を置くこととなっています。

文書の取扱いは、次に掲げる事項を十分認識して処理しなければなりません。

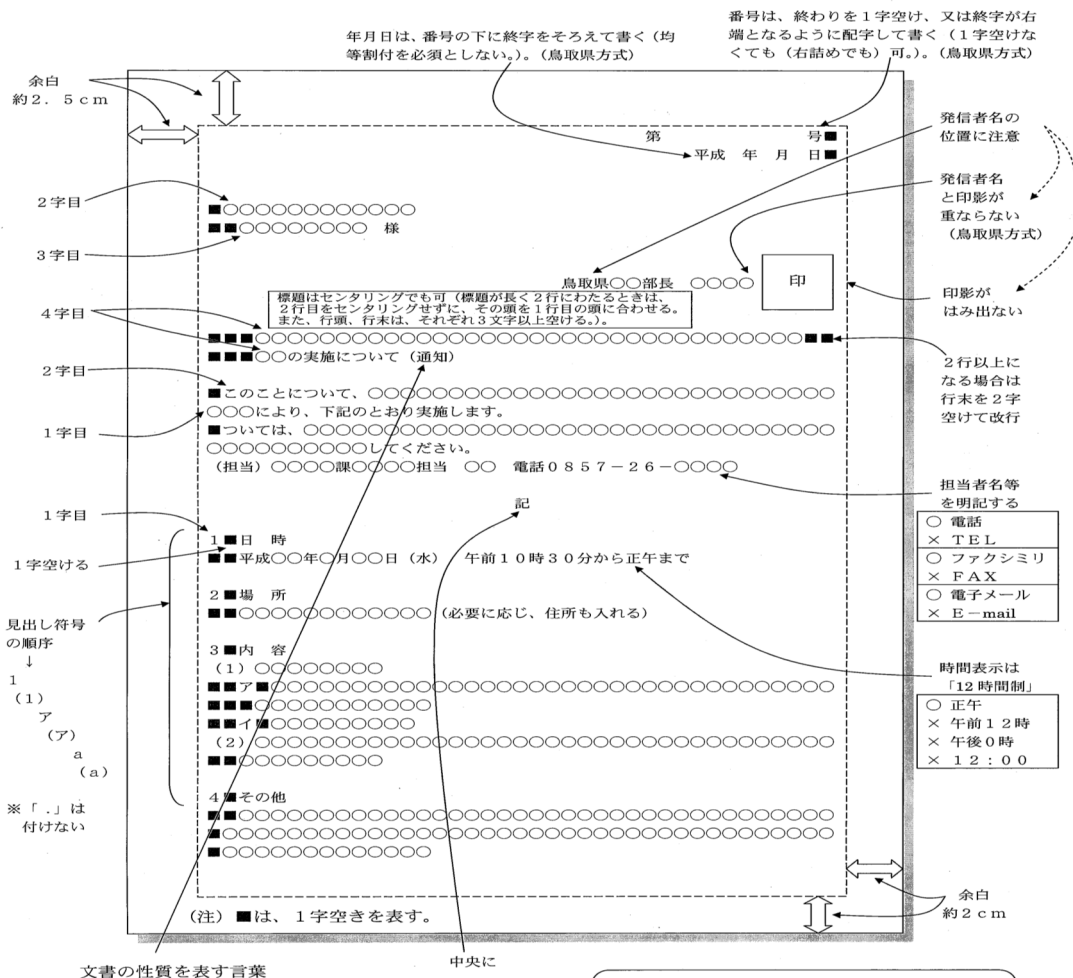
- (1) 文書事務に関する規程などに従って取り扱うこと。
- (2) 文書は丁寧かつ迅速に取り扱うこと。
- (3) 文書は正確に取り扱うこと。
- (4) 文書は簡明かつ平易なものであること。
- (5) 文書は責任をもって取り扱うこと。
- (6) 文書は処理状況を明らかにすること。
- (7) 組織の縦、横の連絡に十分注意すること。



特に公印を押した文書は、学校が作成し、学校の意味を表したものととして取り扱われますので、慎重に作成をお願いします。

昭和41年に「文書事務の手引」の初版が刊行され、その後3回の改訂を経て、現在に至るまで鳥取県の文書事務の執務の手引として利用されてきました。その「文書事務の手引」が、22年ぶりに平成27年5月に改訂されました。その中から、読んでもらう者に体裁よく、わかりやすい文書とするため、「書式と作成上の注意」についてを掲載しましたので文書を作成するときの参考にしてください。

書式と作成上の注意



公文書には、半角・倍角文字、ゴシック体などは使いません。